

経営改革プラン 22年度実績・病院自己評価(経営指標に係る数値目標)

【財務に係る数値目標】

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	22年度計画値	22年度実績値	差引き	23年度計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
											評価	コメント
1	経常収支比率 (%)	89.9	92.7	93.6	97.4	96.6	100.7	100.3	△ 0.4	101.7	B	21年度の経常収支は▲313百万円でしたが、22年度は31百万円となり、大幅に改善しました。この結果、経常収支比率は21年度と比べ3.7%改善し、計画値をほぼ達成しました。
2	職員給与費対医業収益比率 (%)	52.7	51.5	51.2	49.2	50.9	47.0	49.6	2.6	46.8	C	22年度は計画と比較して、医業収益で535百万円(消費税抜き)上回りましたが、医師をはじめとする医療スタッフの確保に努めた結果、職員給与費で482百万円超過したため、計画値には達しませんでした。なお、21年度との比較では、1.3%改善しています。
3	材料費対医業収益比率 (%)	29.1	28.2	26.7	26.2	24.5	25.8	23.4	△ 2.4	25.8	A	21年度に比べて、材料費は16百万円増加しました。一方、医業収益が大きく伸びたことから、計画値を大幅に上回りました。
4	一般病床利用率 (%)	86.6	86.2	86.9	86.6	87.6	87.5	86.9	△ 0.6	88.0	B	22年度は計画と比較して、延入院患者数が793人減少し、一般病床利用率は低下しましたが、計画値をほぼ達成しました。延入院患者数減少の要因は一部診療科で医師が途中退職したことなどによります。また、平均在院日数が21年度13.1日から22年度12.9日と短くなったことも影響しています。
5	入院患者1人1日当たり収入額 (円)	42,287	44,122	43,807	46,834	46,525	47,074	49,535	2,461	47,074	A	22年度は2年に一度の診療報酬改定年にあたり、10年振りのプラス改定となりました。当院では、新たに示された増収となる施設基準の適用を早期に受けるため、迅速な体制整備に努めた結果、大幅な入院診療単価の増加となりました。
6	外来患者1人1日当たり収入額 (円)	7,885	8,571	8,679	8,679	9,690	8,679	10,218	1,539	8,679	A	外来診療単価増加の要因は、入院と同様に診療報酬のプラス改定によるものとあわせて、人工透析や外来化学療法など診療報酬の高い治療が増えたことによります。

【その他の指標】

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	22年度計画値	22年度実績値	差引き	23年度計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
											評価	コメント
7	紹介患者数 (人)	7,023	7,670	7,537	7,900	7,774	8,140	8,099	△ 41	8,380	C	全体では21年度と比べ325人の増加(4.1%増)でしたが、計画値をわずかに達成することができませんでした。神経内科の医師減員による新患者制限の影響が大きく、神経内科の紹介患者数は21年度で385人であったものが、22年度は173人と212人減少しました。
8	救急患者数 (人)	14,550	10,620	10,469	10,410	8,352	10,200	6,257	△ 3,943	10,000	B	前年度に引続き救急患者数は大幅に減少しました。救急車の受入れ患者は2,596件から2,617件と21件の増加しているため、一次のウォークイン患者が大幅に減少しました。今後とも地域における二次救急医療機関としての役割を担い、その充実に努めてまいります。
9	手術件数 (件)	2,121	2,230	2,381	2,300	2,562	2,370	2,538	168	2,440	B	22年度は、対前年度でわずか(24件)に減少しましたが計画を168件上回り目標に達しました。手術件数のうち、1,737件が全身麻酔による手術となっています。診療科毎の主な増減は、耳鼻咽喉科で27件、歯科で26件、産婦人科で25件上回りましたが、外科で34件、眼科で32件、脳神経外科で30件減少しました。

経営改革プラン 22年度実績・病院自己評価(経営効率化のための具体的な取り組み)

【医療提供の充実】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
1	外来診療体制の強化	計画的に診療ブースを増やすとともに、医療事務補助者を増員し外来診療の円滑化を図る。	21年度～	B	22年度は外来3ブロックに診療ブースを新設しました。循環器内科の新患受付を2ブロックから3ブロックに移すなどし、診療の効率化を図っています。また、22年度において、医師事務作業補助者は2人を増員し12人体制としています。
2	がん診療の充実	がん診療の体制を整備し、放射線治療や化学療法の受け入れ患者数を拡大する。また、緩和ケアの専任者を育成する。	21年度～	A	22年8月1日より緩和ケア担当医師と緩和ケア認定看護師による緩和ケア外来を新設しました。また、がん相談支援室を開設しました。22年10月には、がん診療に携わる医療スタッフの育成のため、緩和ケア研修会を新たに開催しました。
3	放射線治療の開始	放射線治療機器を導入し、患者受け入れを行う。	20年度～	B	22年度は、治療実患者数が139人で前年度に比べ22人減少しました。ただし、21年度の治療患者数には、他医療機関で放射線治療機器の更新を行っていた間に当院で受け入れた患者数が含まれており、特別な事情により増加したものです。治療医は、大学病院から毎週1回来院する非常勤体制が継続しており、常勤医師の配置を大学に求めています。
4	助産師外来の開始	正常な妊娠経過をたどっている妊婦を対象に助産師が健診や保健指導を行い、助産師の専門性を生かしたきめ細やかなサービスを行う。	21年度～	A	21年4月の開始以来、助産師外来を継続しています。安心して出産に臨めるよう、外来受診のときから経験豊かな助産師が担当し妊婦さんと信頼関係を築くように心がけています。なお、22年度の受診者は702人で、21年度と比較して110人増加しています。

5	専任看護師の配置	医療の高度化のため専門の教育を受けた専任看護師を配置する。医療安全、感染対策、皮膚・排泄ケア、緩和ケアほか。	20年度～	B	22年度は、緩和ケア認定看護師1人が資格取得し、配置となりました。緩和ケア外来時の看護師として患者のケア等に当たっています。22年度末で、専任看護師、認定看護師は『認定看護管理』、『医療安全』、『感染管理』、『皮膚・排泄ケア』及び『緩和ケア』が1人ずつの計5人となりました。今後も継続して新たな認定看護師の養成に努めます。
6	救急医療体制の強化	薬剤師の勤務に宿日直を導入し、24時間調剤できる体制を確立する。	21年度～	A	2次救急を担う医療機関として医師の体制を厚くするため、正規の宿日直医師のほかに臨床研修医を副直として配置しています。また薬剤部では21年4月から薬剤師2名を採用し、24時間調剤体制を開始しています。さらに、放射線技術科においては22年8月から奇数日(輪番制当番日)の24時間体制を開始しています。
7	リハビリテーション体制の強化	療法士の増員と言語聴覚士を新たに配置する。 (20年度当初:理学療法士6・作業療法士1)	20年度～	B	言語聴覚士は22年3月より配置しており、22年度は本格的に稼働し、音声・言語・摂食・嚥下機能の維持向上を図るための訓練及び検査に当たっています。 (22年度末:理学療法士6人、作業療法士2人、言語聴覚士1人)
8	地域医療連携ネットワークシステムの拡大	現在17医療機関であるが、これを拡大し地域の医療機関との連携を強化する。	20年度～	B	接続医療機関数は、22年度3ヶ所増加し、23ヶ所の増加となりました。(市内19ヶ所、東胆振2ヶ所、日高2ヶ所) 市内、日高管内の医療機関の訪問やホームページで、当システムをPRしました。

【収入の増加】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
9	7:1看護体制への移行	看護師増員して、手厚い看護を実現する。	20年度～	A	22年度は、病棟看護師を23年3月末現在 正規職員219名、嘱託職員8名の体制で、前年度末と比較し正規職員は7名減少しましたが、7:1体制は維持しています。今後は看護体制の維持・さらなる充実を図るため、人員確保に努めていきます。
10	小児入院管理料2の算定 ※平成22年4月改定で、小児入院管理料3に名称変更。	小児科専門病棟と看護配置増。	20年度～	A	20年7月より算定を開始し、目標達成しています。22年度の対象延患者は、8,633人で効果額は約52百万円となりました。
11	入院時医学管理加算の算定 ※平成22年4月改定で総合入院体制加算に名称変更	急性期医療を提供する体制や医師の負担軽減の体制等を評価する入院時医学管理加算の算定を開始する。	21年度～	A	21年8月より算定を開始、目標を達成し、現在も維持しています。
12	特定集中治療室管理料の算定	重症の患者への集中的な医療の提供体制を評価する特定集中治療室管理料の算定を開始する。	21年度～	C	22年度における集中治療室における入院患者数は、1,699人で1日平均では4.7人となっています。管理料の算定に当たっては看護師の増員を要し、マンパワーの余剰は生じることから当面は、病棟看護師を優先した確保に努めます。

13	DPC請求の開始	DPC請求への移行に合わせ、診療内容の分析・比較を通じた医療の標準化を図り、収入費や経費節減に結びつける。	21年度～	A	22年4月より、コンサルタントを導入し、他病院とのベンチマーク分析を基に毎月、各部門ミーティングを開催し、内服、注射、処置、検査、画像などについて検討し取り組んだ結果、従来の出来高算定した場合とDPCによる包括算定の差は、21年度3.4%から22年度5.27%に上昇しました。また、医療の標準化を進め、後発薬品の採用などによる材料費の削減に努めました。
14	人工透析の拡大	急性期の透析に取り組み、設備の稼働率を高める。	20年度～	B	21年度は年間6,263件でしたが、22年度は年間7,066件で803件、率にして12.8%と増加となりました。なお、病床に対する稼働率は21年度は50%、22年度は55%となっています。また外来の実患者数は21年度末の38人に対して22年度末では52人に増加しています。
15	査定対策の充実	査定対策委員会の活動を強化し、増収を図る。	20年度～	A	委員会の活動状況については前年度同様でしたが、医師、部門への連絡調整を密に行い、また、請求委託業者に対して点検強化を働きかけました。22年度の査定率は0.25%で、前年度比較▲0.16%となり、金額にして▲9,341千円改善することができ、前年度は下回っていた道内主要公立病院の査定率平均値0.30%についても上回る結果となりました。

【経費の節減】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
16	職員給与の適正化	国家公務員と異なる支給となっている手当の見直しを行う。		B	国の制度にはない、「5級係長職の格付け」を平成23年1月1日施行で廃止しました。冬季(12～3月)のみ支給していた通勤距離が1.5～2.0kmの通勤手当は、22年4月で廃止しました。また、国家公務員を上回って支給していた通勤手当について、23年3月議会で条例改正し、平成23年4月1日施行で改正し、国家公務員と同じとなりました。残りの課題は、持家に対する住居手当の解消です。

17	診療材料費の削減	診療材料の価格交渉に専門業者のノウハウを活用し、診療材料費を削減する。	20年度～	B	22年度については、循環器分野材料の価格削減交渉とその他部門材料の安価品目への切替の取り組みを行いました。その結果、21年度使用数量換算で約2.5百万円の削減、安価品目への切替においては同数量換算で約11.9百万円の削減効果がありましたが、診療材料費全体としては前年度比で27百万円増加しています。
18	後発医薬品の採用拡大	後発医薬品の採用を計画的に総購入額の10%まで拡大する。	21年度～	B	DPC請求を踏まえ、主に抗生剤などの注射薬を中心に後発医薬品の採用を行いました。22年度の購入金額は約1億円で、薬剤総購入額の9.65%となり、計画値に近づきました。経営効果額は82百万円となりました。
19	光熱水費を削減	発電量と買電量の配分を見直すほか、省エネの取り組み。	20年度～	B	21年度に引き続き、コージェネや空調機等の運転方案の見直しを行いました。 22年度から23年度にかけて、21年度比較で2%(各年1%)の光熱水費減を目標に、苫小牧市役所エコオフィスプランに掲げられている取組を実践する等、電気・ガス・水道使用量の節減に努めています。具体的な取組としては、病院内でのこまめな消灯の徹底や、各機器使用に関する節電等があげられます。今後もガス単価等が値上げが予定されていますので、さらに省エネに対する取組に努めます。
20	産業廃棄物処分手数料を削減	感染性医療廃棄物の分別見直しにより、処分手数料を削減。	20年度～	B	21年4月末にVRE院内感染が発生したことを受け、標準予防策のレベルアップを行いました。これにより20年度と比較して感染性廃棄物発生量が増えています。21年9月から費用削減への取組を実施し、22年度の処分手数料は前年度より7,400千円の削減になりました。今後も分別の徹底を行い、削減対策に努めます。

21	コスト意識の醸成	病院の経営情報を職員が共有するため、定期的に経営ニュースを発刊し、コスト意識を高める。	21年度～	B	22年6月と10月の2回「財務通信」を発行し、決算等に関する情報を職員に周知しました。周知方法は、各職場に紙面として配布したほか、院内ポータル画面上のインフォメーション機能を活用し、多くの職員の目に触れるようにしました。毎月開催している全体管理者会議において経営状況を報告し、各職場内での周知に努めました。
----	----------	---	-------	---	---

【患者サービスの向上】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
22	患者意見の反映	ご意見箱等に寄せられた患者さんの意見とこれに対する病院の回答をホームページ等で公表する。	20年度～	A	22年度もご意見箱の運用を継続しており、全件について毎月の業務改善部会で回答を作成し、1階ロビー掲示板には3ヶ月分を、情報コーナー並びに当院ホームページには過去分を含めて閲覧できるよう公表しています。また、ご意見は回答するだけでなく、検討し業務改善につなげています。22年度は7件の改善を実施しました。なお、接遇など職員の対応についての苦情は、全件について関係部署に通知し個別に改善するようにしています。
23	患者満足度調査の継続実施	患者満足度調査や待ち時間調査を定期的実施し、サービス向上に結びつける。	20年度～	A	20年度及び21年度に引き続き、22年12月に「外来待ち時間・満足度調査」を、23年2月に「入院満足度調査」を実施しました。
24	接遇研修の実施	患者サービス向上のため、委託業者の職員を含めた接遇研修を定期的実施する。	20年度～	B	20年11月接遇改善部会を設置し、22年度では委託事業所を含めた接遇研修会を3回実施し、延200人の参加を得ました。また、22年7月に身だしなみに関するアンケート調査を実施いたしました。さらに21年度から接遇マニュアル作りに着手し、22年度全職員(委託事業所含む)に配布いたしました。また、この接遇マニュアルに基づき院内巡回を実施いたしました。

25	病院広報誌の発行	病院と患者さんのコミュニケーションの一助として病院広報誌を定期発行する。	21年度～	A	22年度において、病院広報誌「みんなの市立病院」No.002～011を発行しました。発行回数を重ねるごとに、見やすい紙面、内容の充実に努めました。
----	----------	--------------------------------------	-------	---	---

【人材の確保】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
26	医師確保の取り組み	医師の負担軽減や勤務条件の改善を図り医師の確保に努める。	20年度～	A	22年4月1日現在の医師数は、71名で(うち初期研修医は11名)前年同月に比べ3名(うち研修医2名)増加し、年々増加傾向にあります。 救急の当直医師の負担軽減措置として、「コンビニ受診の抑制」PRや苫小牧市夜間・休日急病センターの新施設での開院に伴い一次救急患者の減少が大きな効果となりました。また、初期研修医や若い医師が増員したことによりマンパワーとなり、職場の活性化に大きく寄与しています。
27	看護師確保の取り組み	採用試験の適宜実施や病院見学会、就職説明会の実施などにより看護師確保に努める。	20年度～	A	年5回採用試験を実施、病院見学会を毎月実施(参加者希望者がいない場合は中止)、苫小牧看護専門学校をはじめ、胆振日高管内の学校訪問により就職説明会を実施しています。22年度は、正規看護師の退職者20名に対し、21名の採用ができました。また、23年4月の看護学生への学資金貸与制度を開始に向けた準備を行い、将来の看護師確保に向けた取組を進めてきました。
28	医師の事務負担を軽減	医療事務補助者を採用し、外来部門への配置	20年度～	B	20年度5人、21年度10人、22年度は3人増員し13人体制としました。医師の指示のもと事務作業を主な業務としています。今後とも医師の意見を聴き、配置や担当する業務内容について継続的に検討してまいります。

29	院内保育所の24時間化	女性職員の勤務継続を支援するため、院内保育所を24時間化する。	21年度～	A	21年4月より24時間保育、日・祝日の開園および学童保育(小学生)を実施しています。定員50名で事務職員を除く病院職員の児童を対象に受入れしております。開園時間は、原則7:30～19:30で、週2日を24時間保育の日としております。22年度利用実績は、24時間が延5人、学童保育が延125人となっております。
30	研修の強化	医師・看護師をはじめとする医療スタッフの専門性を高めるため、外部研修や学会への参加を拡大する。	20年度～	B	職員の研修参加等に係る旅費について、医師は1人あたりの定額配当により道内外の学会出席旅費を確保しています。また、認定看護師の資格取得等に関する旅費の増額をおこないました。
31	事務プロパー職員の採用検討	専門性を必要とする病院事務職員のプロパー採用を検討する。	20年度～	B	22年度は、医療ソーシャルワーカーを1名、嘱託医療事務職員をプロパー職員として採用しました。また従来外部委託していた診療記録管理室は23年度から直営化し、診療情報管理士を採用する準備を進めました。

【経営体制の強化】

項番	項目	内容	目標年次	苫小牧市立病院自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
32	地方公営企業法の全部適用を検討	IV 経営形態見直しに係る計画に記述	21年度～	A	21年度の経営改革評価委員会において、「地方公営企業法の全部適用」の是非について協議を行い、検証を行った結果「地方公営企業法の一部適用」を継続するとの結論となり、評価報告書として市長に提出されました。 22年2月、市長、副市長等で構成する政策会議において、委員会の報告に基づき「一部適用を継続する」との意思決定が行われました。
33	組織の見直し	効果的・効率的な病院運営を行うための組織見直しを行い、経営健全化に結びつける。	21年度～	B	21年4月から医局に属していた医療技術部門を切り離し医療技術科を新設しました。 22年度は、7月に地域医療連携室と医療福祉相談室を統合して「地域連携相談センター」を設置、また、8月に「がん相談支援室」を設置しました。

経営改革プラン 22年度実績・病院自己評価(各年度の収支計画)

(単位:千円)

【収益的収支】

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	22年度計画値	22年度実績値	差引き	23年度計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
											評価	コメント
1	病院事業収益	7,842,057	8,369,949	8,398,352	8,785,196	9,036,568	8,943,258	9,538,165	594,907	9,022,700	A	計画値を大幅に上回りました。
2	医療収益	7,295,106	7,604,936	7,624,666	8,030,009	8,287,089	8,194,963	8,740,340	545,377	8,226,855	A	計画値を大幅に上回りました。
3	うち入院収益	5,069,294	5,247,807	5,255,171	5,596,683	5,625,144	5,681,829	5,939,724	257,895	5,713,721	A	患者数は若干減少しましたが、診療単価が大幅に増加しました。
4	うち外来収益	1,864,089	1,923,973	1,944,748	1,974,511	2,176,902	2,054,319	2,277,501	223,182	2,054,319	A	患者数は減少しましたが、診療単価が大幅に増加しました。
5	医療外収益	512,218	592,321	600,994	582,495	576,787	575,604	625,134	49,530	556,089	A	計画値を大幅に上回りました。
6	特別利益	34,733	172,692	172,692	172,692	172,692	172,691	172,691	0	239,756	B	計画どおりの結果となりました。
7	病院事業費用	9,120,310	9,856,061	9,785,840	8,860,393	9,203,713	8,733,482	9,400,705	667,223	8,659,452	C	計画値を大幅に上回りました。
8	医療費用	8,208,186	8,521,312	8,457,849	8,515,249	8,871,817	8,397,417	9,043,639	646,222	8,336,103	C	計画値を大幅に上回りました。
9	うち職員給与費	3,841,978	3,913,911	3,899,712	3,952,555	4,212,054	3,852,555	4,335,034	482,479	3,852,555	C	計画値を大幅に上回りました。
10	うち材料費	2,123,383	2,144,397	2,137,197	2,103,900	2,130,702	2,114,827	2,146,929	32,102	2,123,426	C	計画値を上回りました。
11	医療外費用外	481,068	322,146	322,895	323,644	308,089	314,565	291,280	△ 23,285	301,849	B	計画値を下回りました。
12	特別損失	431,056	1,012,603	1,005,096	21,500	25,807	21,500	65,786	44,286	21,500	C	旧病院の看護師寮を売却したため増加しました。
13	経常収支	△ 881,930	△ 646,201	△ 562,893	△ 226,389	△ 313,199	58,585	31,373	△ 27,212	144,992	C	計画値を下回りました。
14	当年度純損益	△ 1,278,253	△ 1,486,112	△ 1,386,522	△ 75,197	△ 166,314	209,776	138,278	△ 71,498	363,248	C	計画値を下回りました。
15	利益剰余金又は累積欠損金(△)	△ 4,570,667	△ 6,056,779	△ 5,957,189	△ 6,131,976	△ 6,123,503	△ 5,922,200	△ 5,985,225	△ 63,025	△ 5,558,952	C	計画値を下回りました。

【資本的収支】

(単位:千円)

項番	項目	19年度実績値	20年度見込値	20年度実績値	21年度計画値	21年度実績値	22年度計画値	22年度実績値	差引き	23年度計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
											評価	コメント
16	資本的収入	852,360	1,631,207	1,629,707	704,747	712,347	796,917	805,152	8,235	676,909	B	計画値を上回りました。
17	うち企業債	425,200	998,100	996,600	28,500	27,100	100,000	72,300	△ 27,700	100,000	B	国庫補助金を活用した分、企業債を縮減できました。
18	うち他金計出資金・負担金	427,090	610,393	610,394	676,247	676,247	696,917	697,387	470	576,909	B	ほぼ計画どおりの結果となりました。
19	資本的支出	1,329,318	1,009,984	1,005,495	1,069,585	1,075,933	1,166,292	1,171,549	5,257	1,175,714	B	計画値を上回りました。
20	うち建設改良費	435,904	70,273	65,784	34,500	40,849	103,000	111,120	8,120	103,000	B	計画値を上回りました。
21	うち企業債償還金	893,414	939,711	939,711	1,035,085	1,035,084	1,063,292	1,060,429	△ 2,863	1,072,714	B	計画値を下回りました。
22	収支差引	△ 476,958	621,223	624,212	△ 364,838	△ 363,586	△ 369,375	△ 366,397	2,978	△ 498,805	B	計画値を上回りました。

【単年度資金収支ほか】

(単位:千円)

項番	項目	19年度 実績値	20年度 見込値	20年度 実績値	21年度 計画値	21年度 実績値	22年度 計画値	22年度 実績値	差引き	23年度 計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
											評価	コメント
23	単年度資金収支	△ 1,123,777	423,499	525,116	28,618	△ 62,906	296,145	254,459	△ 41,686	250,274	C	計画値は達成できなかったものの、前年度に比べ、大きく改善しました。
24	累積資金収支	△ 1,557,173	△ 1,133,674	△ 1,032,057	△ 1,105,056	△ 1,094,963	△ 808,911	△ 840,504	△ 31,593	△ 558,637	C	計画値を下回りました。
25	一般会計繰入金	914,793	1,333,303	1,333,303	1,402,361	1,402,361	1,416,139	1,431,365	15,226	1,343,681	B	計画値を上回りました。

【その他】

項番	項目	19年度 実績値	20年度 見込値	20年度 実績値	21年度 計画値	21年度 実績値	22年度 計画値	22年度 実績値	差引き	23年度 計画値	苫小牧市立病院自己評価・分析	
											評価	コメント
26	経常収支比率%	89.9	92.7	93.6	97.4	96.6	100.7	100.3	△ 0.4	101.7	B	ほぼ計画どおりの結果となりました。
27	職員給与費対 医療収益比率%	52.7	51.5	51.2	49.2	50.9	47.0	49.6	2.6	46.8	C	計画値を上回りました。
28	材料費対 医療収益比率%	29.1	28.2	26.7	26.2	24.5	25.8	23.4	△ 2.4	25.8	A	計画値を大幅に上回りました。
29	資金不足比率%	21.3	14.9	13.2	13.8	10.7	9.9	9.6	△ 0.3	6.8	B	計画値を下回りました。
30	患者数人	119,877	118,938	119,958	119,500	120,903	120,700	119,907	△ 793	121,400	C	計画値を下回りました。
31	1日当たり患者数人	328	326	329	327	331	331	329	△ 2	333	C	計画値を下回りました。
32	入院病床利用率%	86.6	86.2	86.9	86.6	87.6	87.5	86.9	△ 0.6	88.0	B	ほぼ計画どおりの結果となりました。
33	診療単価円	42,287	44,122	43,807	46,834	46,525	47,074	49,535	2,461	47,074	A	計画値を大幅に上回りました。
34	患者数人	236,381	224,474	224,039	227,500	224,619	236,700	222,865	△ 13,835	236,700	C	計画値を大幅に下回りました。
35	外来 1日当たり患者数人	969	920	918	936	928	970	917	△ 53	970	C	計画値を大幅に下回りました。
36	診療単価円	7,885	8,571	8,679	8,679	9,690	8,679	10,218	1,539	8,679	A	計画値を大幅に上回りました。

苫小牧市立病院経営改革プラン評価基準表

経営改革プランの進捗状況に対する評価は、A～Eの5段階評価で、それぞれの評価基準は次のとおりです。

評価	評価基準
A	プランの目標値を余裕をもって達成し、ある程度の附加価値が生じた。
B	プランの目標値は達成した。
C	プランの目標達成に向けて取り組みはしているが、現状未達成である。
D	プランの目標達成に向けて取り組めていない。
E	検討されていない。